

**令和 6 年度
飯能商工会議所青年部
政策提言書**



令和 7 年 3 月 1 0 日

「まちの未来を、自らの手で」—政策提言が生む新たな可能性—

商工会議所は、もともと不平等条約改正の交渉を進める中で、国民や実業界の意見を集約する場がなかった日本において、実業界の意見をまとめ、国際的地位を向上させるために設立されました。1878年（明治11年）3月、伊藤博文らの相談を受けた渋沢栄一が中心となり、日本初の商工会議所となる「東京商法会議所（後の東京商工会議所）」が設立され、初代会頭に就任しました。この経緯から、商工会議所活動の一翼を担う青年部も「政策提言」を行う団体としての役割を担っております。

「政策提言」と聞くと難しく感じるかもしれませんが、実際には非常にやりがいがあり、面白い活動であることを実感しております。日々の生活や仕事の中で、「もっとこうなったらいいのに」という想いを形にし、それを実現していくことで、「自分たちが夢に描いた未来を自らの手で創ることができる」と強く感じています。

今年一年、他市の青年部会長の方々とお話しする機会が多くありましたが、多くの地域で政策提言を楽しみながら取り組み、まちづくりに貢献している姿を見て、大きな刺激を受けました。ある単会では、行政・金融機関・民間企業・学校と商工会議所青年部が日頃から連携し、政策提言を通じて夢を現実のものへと変えておりました。

私たち中小企業は、大企業のように売上が立たないからといって、この地から撤退するわけにはいきません。だからこそ、私たち自らの手で面白い街にしていくしかないのです。末筆ながら、本提言作成並びに発表に際し、飯能市、飯能商工会議所、そして多くの皆様にご協力いただきました事に、心より感謝を申し上げます。



令和6年度
飯能商工会議所青年部
会長

上神谷 昌宏
Kamikamiya Masahiro

政策提言書作成にあたり

飯能商工会議所青年部は、飯能市内で活動をする 20 歳から 50 歳までの会員で構成されており、地域社会の次代を担う若手経営者としての育成と資質向上を目指し、商工業の振興、発展に関する協議を重ねながら、地域の発展のために必要とされる様々な事業を実施し、知識の習得、情報交換と交流を図っております。その最中、去る 2 月 8 日に新聞各種報道にて『埼玉の都市が財政危機に財政調整基金残高わずか 4 億円、適正規模の 5 分の 1 飯能市長「危機的な状況」災害発生時に対応できなくなる恐れ 人件費削減など緊急財政対策へ』といった報道がなされました。この報道は地域で暮らし私達にとっても大きな衝撃を与えるだけでなく、市内事業者にとりましてもこの先の経済活動に不安を感じざるを得ないものとなりました。

飯能市は自然が豊かで都心からのアクセスも良く災害に強いといった好立地ではありますが、こと経済活動となると話は異なります。市内で事業を継続することが困難であったり、好条件の仕事が無ければ、都内ですぐに好条件の仕事をする事が出来てしまいます。しかし、それでは市民および市内事業者の誇りは醸成されません。住みよい豊かな住環境は勝手にできるわけではなく、ましてや誰かが勝手に作ってくれるわけでもありません。自分たちの地域を発展させるのは自分自身であるといった自覚を持ち、地域の発展のために飯能市で自分らしく経済活動が続けていくことこそ、飯能に『誇り』を持ち、地域の課題を自分自身の事と考え解決をするために尽くす市民を増やすのだと思います。

この度の報道にて、全国的に行財政運営が困難な状態に陥る可能性があることを理解する事ができました。様々な地域課題を対岸の火事とせず、何事にも諦めずに取り組むことで飯能市はまだまだ発展が出来る筈です。私達市内事業者にとりましては飯能市が更なる発展をし、この先もこの地域で安心して経済活動が続けることこそ本望です。民間、行政といった垣根にとらわれることなく、飯能商工会議所青年部は実働部隊として地域の発展のために尽くして参ります。何卒お汲み取りいただき、本提言書につきましてご高配のほどお願いを申し上げます。

結びになりますが、この度の政策提言書作成は、飯能商工会議所青年部にとりましても、この先も私たちが飯能市内で事業を継続し、住みよい豊かな未来の飯能市の事を考え研究をする有意義な機会となりました。飯能商工会議所青年部の政策提言活動は昨年に引き続き 2 年目を迎えます。本提言では、私たち一人ひとりが日頃の経済活動にて感じている意見を、年間を通じてまとめただけではなく、次代を担う若い世代が飯能市に明るい未来を感じ、市内で働きたくなり、ずっと住み続けたいなることを念頭に置き作成を致しました。作成にあたり多大なるご協力を頂きました各行政機関の皆様、早稲田大学大学院創造理工学研究科の皆様、飯能商工会議所会員の皆様に感謝申し上げます。飯能市民が飯能市で稼ぎ、市民が『誇り』をもてるような地域になるための一助となれば幸いです。

政策提言委員会 委員長 武田一宏

令和6年	1月20日	所管事務調査に係る調査事項の検討
令和6年	4月16日	所管事務調査事項（テーマ）の決定
令和6年	4月30日	委員会館討議　ほか4回
令和6年	7月23日	例会　『飯能 YEG　今年も政策提言するってよ！！』開催
令和7年	2月01日	ヤングリーダー研修会　飯能大会開催
令和7年	3月11日	政策提言書　校了



食能商工会議所青年部

第三回定例会
グレートワーク

会長 上村安喜夫

景観整備

- 残したい風景
 - ・街中にベンチ
 - ・面川材で街並みを作る
- 倉・美術品 桜銀杏並木 ムーミンのあけぼの公園 八幡神社・双柳神社 etc.
- 天竺山・東郷神社 90歳の獅子舞
- 公園の増設
 - ・クリーンセンター跡地にフェリス
 - ・食能駅に西口を
 - ・ゴルフ場(開放)
 - ・食能祭の山車
 - ・マシナ

地域資源の活用

- 「グラブパイプ」西川材の活用
 - ・吊り草に!
 - ・新
 - ・成人式で KAN
 - ・四里餅 パフエ
 - ・埼玉の土居とに
- 大樹もろこよ
- シングルマザーへの生活支援
- 西川ドーム

雇用創出

- 家を建てられる所をふやす
 - 子供遊び場
 - 日本一のアスレチック
 - ベビーシッター
 - ・名物物品を作る
 - ・食能市民 ネット無料
 - ・希望者相談所
 - ・運転免許無償化
- 川越のような街並み
 - 出張授業
 - 大型商業施設
 - 起業スクール

1、持続可能な経済活動

市内事業者が安心して事業を継続でき、挑戦できる地域基盤づくり

昨今の急激なICTの発展により働き方も多岐にわたり、これまで都内一極集中型であった人の流れにも大きな変化がみられるようになりました。現在飯能市は二拠点移住やテレワーク等の新規起業者が増加傾向にあり、これまでは飯能市において新規創業者の大半はシニア層が目立っていたが、ここ数年では30代～50代の子育て世代の企業が目立ち、且つ廃業率も低いとのこと。これら要因としてプチ創業や自宅店舗併用型での起業などが一般化してきたことが挙げられ、この良い流れを絶やすことなく、飯能市の新規事業者を増やし経済活動をさらに加速させていくことで、新たな需要の創出や事業の連携拡大にも繋がるものと考えます。その一方で2月8日、各種報道により【埼玉の都市が財政危機に 財政調整基金残高わずか4億円、適正規模の5分の1 飯能市長「危機的な状況」 災害発生時に対応できなくなる恐れ 人件費削減など緊急財政対策へ】と報道がなされました。この報道により市内事業者は大きな不安を感じることもとなっただけでなく、今後当市で起業や移転を検討している方や立地事業者の設備投資等、様々な今後の事業計画に影響を与える事が懸念されます。この状況を踏まえて、以下の通り提言をさせていただきます。

- 1、市内事業者が安心して経済活動を行っていけるよう、行財政運営状況の進捗報告及び今後のビジョンの発信強化を
- 2、現存立地企業や事業者の経済活動に影響がない予算編成を
- 3、新規事業者及び現存事業者への更なる伴走型企业支援の強化を
- 4、事業者の人材不足解消のための施策の実施を
- 5、市街地にプチ創業や実験的に独立開業ができる簡易施設（日替わりシェフの店のような施設）の開設を
- 6、女性や若い世代が起業する為に必要な知識を得る出前講座等の勉強会の強化を
- 7、市主催事業と絡めた新規開業者や店舗の情報を発信できる市内企業展示会の実施を
- 8、上記施策を総称し（仮称）『廃業させないまち飯能』宣言などを行い、事業者へのイメージアップを

2、地域資源の魅力発信

西川材をはじめとする現存の地域資源を最大限活用する仕組み及び、市民の『誇り』を醸成する

事業の実施都心から近く豊かな自然に溢れる観光地は古くから林業で栄え、高度経済成長時代からはベッドタウンとして多くの交流を生んで参りました。現在でもその名残は飯能商工会議所付近の仲町に残り、当時の繁栄を僅かながら感じることができます。しかしながらそれを知る世代の多くは亡くなりつつあり、特に転入された方や若い子育て世代は飯能市の歴史的背景を知る方は少なくなりつつあります。都心等で働いている方は日常の大半は他所で過ごすため飯能市を感じることは少なく、飯能市と関わりが少ない企業や事業者であればあるほど転出や移転に繋がってしまうものと推測されます。それらを防ぐためには市民や事業者が飯能市民としての『誇り』を持つ事が重要です。その為には日々の日常生活から当市の文化歴史に触れる機会が必要と考え、以下の提言をさせていただきます。

- 1、公共施設や市主催事業等における西川材の積極的活用および西川材の PR を
- 2、市内公園に飯能市の象徴となるような西川材アスレチックの建造を（クラウドファンディング他、民間活力による）
- 3、間伐材等で作られた枡（仮称）西川升を新たな土産特産品として利用を促進、市内飲食店等と連携をし、my 西川升使用で割引が得られるなどの施策の実施を
- 4、上記 3 の『西川枡で乾杯条例』の策定を
- 5、飯能ブランド DÄINE の活用推進を
- 6、飯能市外ターミナル駅（池袋 八王子 川越）での広報戦略の強化を
- 7、飯能観光大使のさらなる活用およびシティプロモーションの強化を

3、景観整備及び交流人口増加

景観行政飯能、未利用地や公有財産を有効活用し更なる交流人口増加施策の実施

飯能市は良好な景観の形成に取り組むため、平成 29 年 11 月 1 日に景観法に基づく景観行政団体へと移行しました。景観行政団体は、地域の特色や実情に応じて景観計画を定めることができ、この計画によって本市の目指すべき景観上の基本的な考え方や、景観に関する制限、景観上重要な建造物等の指定の方針などを示すことが可能となっております。その方針を最大限に活用し今後整備が検討されている久下六道線周辺をはじめとする中心市街地を景観形成重点区域に策定し、飯能市の歴史や文化が感じられる市街地を作ること、歩きたくなり、訪れたくなる地域をつくることができ、更なる地域の活性化をはかることができると考えます。これを達成するためには綺麗な街並みだけでなく、来訪目的となるための拠点となる場所や店舗が多数存在すること、交通の便がよいことが必須であると考えます。そのためにも現在有効に活用が出来ていない公有地の有効活用すること、公民連携による中心市街地の活動の拠点となる場所をつくること等を提言させていただきます。

1、中心市街地にも景観形成重点地区をつくり市街地全体が観光地となるような取り組みを

2、有料駐車場や売店等を設置し、財源獲得の為の施策の実施を

3、西武鉄道株式会社と連携をしての活動拠点づくりの検討を

3-A、東飯能駅北側 鉄道引き込み予定地の有効活用

(別紙 早稲田大学大学院創造理工学研究科による提言)

3-B、飯能駅西側西武線線路跡地の有効活用、西口広場の開設（昨年度に引き続きの提言）

3-C、東飯能市駅改札前連絡通路の有効活用

4、飯能河原周辺のトラスト地周辺を観光地として整備し更なる観光拠点とする

5、公営施設の駐車場を有料化し、観光客にも利用可能に

6、未利用公有地を駐車場として活用し、交通の利便性向上をはかる

以上

その他

飯能商工会議所青年部会員からの自由意見

- ・クリーンセンターと連携した市民プール設置
- ・公園の増設、子どもたちが気兼ねなくボール遊びが出来る場所をつくる
- ・西川材ドームの建設
- ・四里もち パフェなど既存グルメを応用し新たな土産やグルメの開発
- ・まちなか 至る所にベンチを設置
- ・家を建てられる場所を増やす（市街化調整区域の利活用）
- ・北欧を意識した景観整備
- ・針葉樹→広葉樹に変えていく
- ・イオンなど大型商業施設の誘致
- ・結婚相談や結婚支援の充実、結婚できるまち飯能
- ・イルミネーションで夜でも明るく歩きやすいまちに
- ・東京電力の鉄塔を飯能タワーと名称変更する
- ・外国語表記の看板の充実
- ・入間市からサイクリングロードを繋げる
- ・ムーミングッズストアを街中に、ムーミン、フィンランドを感じることが出来る場所を増やす
- ・美しい登山道、天覧山山頂展望台の整備
- ・隠れムーマ 隠れムーミンなど街歩きをさせる施策
- ・土蔵のリノベーション 活用を促進
- ・山を活用したアクティビティの推進（四輪バギー オフロードセグウェイ）
- ・湖を活用したアクティビティの推進（ウェイクボード カヌー 釣り）



終わりに

本提言書は、飯能市及び、市内の商工業事業者が直面する課題に対して具体的な政策を提案し、飯能市が持続可能な発展を遂げ、より良い未来を実現するための一助となることを目的に作成されました。政策立案において重要なことは、単なる理念や理想論にとどまらず、実現可能性を考慮し、多様な立場の意見を反映させることです。本委員会では飯能商工会議所青年部の全会員向けの定例会を催し、飯能市への政策提言に関する意見を募ったところ、これまでにない闊達な意見交換がなされ、ユニークなアイデアも多数出されました。こうしたところからも次代を担う先導者としての気概を持つ仲間たちの飯能に対する熱い思いを再認識したところであります。また、早稲田大学大学院の学生によるプレゼンテーションでは、外部からの興味深い視点に新たな飯能の可能性を見出しました。

我々の飯能は自然豊かで住みやすい街であり続けなければいけません。この自然と都市機能が調和する飯能市の特性を活かしながら、より魅力的で活力のあるまちづくりを進めるため、本提言書がその一助となり、関係機関や政策決定者の皆様にとって有益な資料となれば幸いです。

最後に、本提言書の作成にあたり、ご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。今後も建設的な議論を続けながら飯能市の商工業の発展に貢献できますよう全力で取り組んでまいります。

飯能商工会議所青年部

副会長 田辺仁裕

